

日本昆虫学会第73回大会講演要旨

2013.9.14 - 16

北海道大学：札幌市



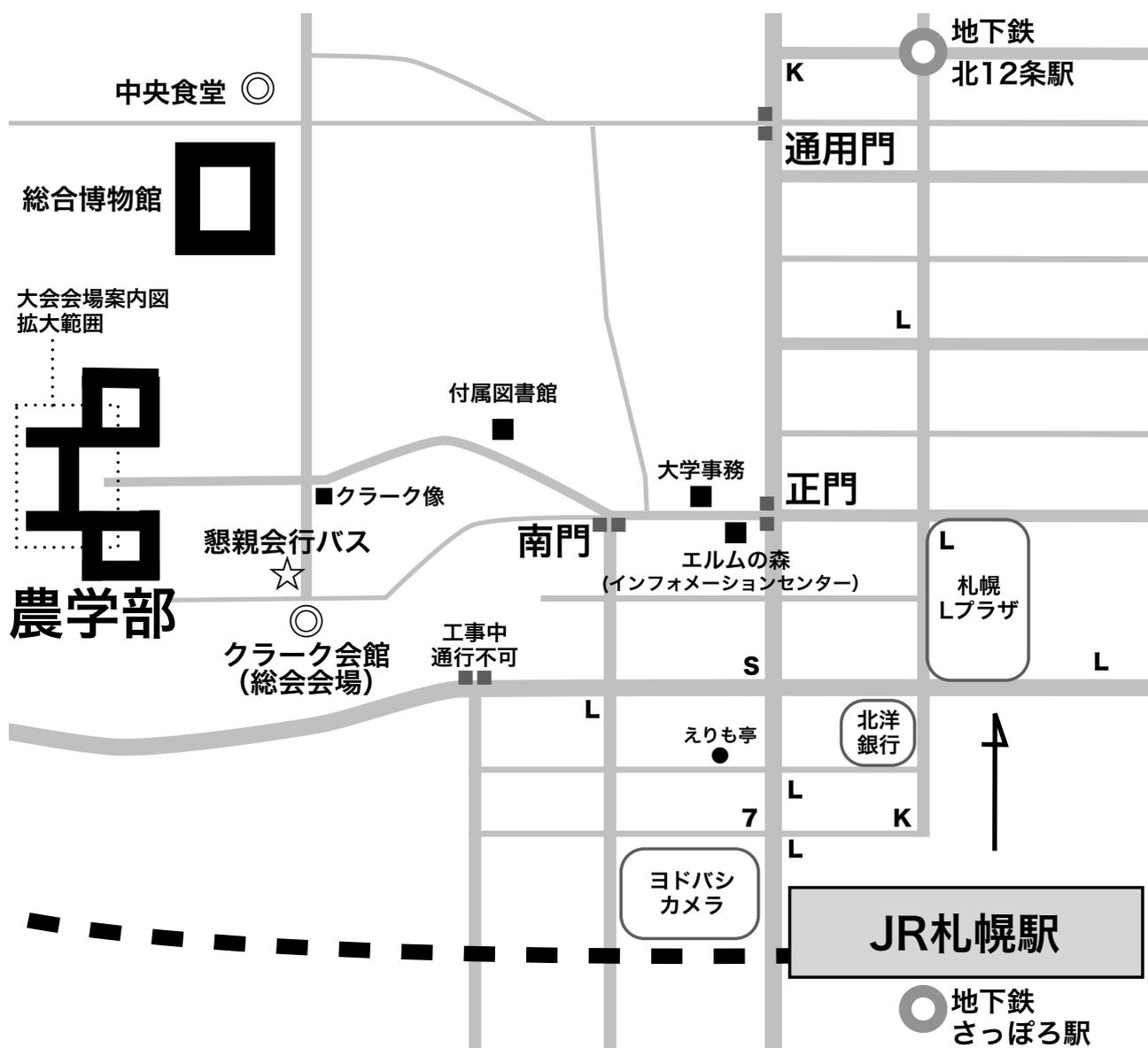
これは未校正です

	A会場 (N11)	B会場 (N21)	C会場 (N31)	D会場 (S31)
14日 (土) 9:00-12:00	一般講演			
	分類	系統地理	生態	生活史
13:00-16:30	学会賞受賞講演・総会 (クラーク会館大講堂)			
15日 (日) 9:00-11:00	一般講演			
	分類	進化, 遺伝 種分化	生態	生活史 生理
11:00~12:00	高校生ポスター コアタイム (4階大講堂)			
13:00-16:00	シンポジウム			
	RDB昆虫の 現状と課題	昆虫のための 新しい系統地理学	分類学の 過去・現在・未来	
16:30-18:30 小集会	昆虫担当学芸員 (試写室1) 昆虫の季節適応 (試写室2) 好蟻性昆虫 (A会場) 昆虫の家族 (B会場) コハナバチの生態学 (C会場) 温暖化によらないチョウの分布 (D会場)			
16日 (月祝) 9:00-12:00	一般講演			
	分類	形態	生態	多様性, 保全
13:00-16:00	一般講演			
	分類	害虫防除 飼育法 衛生	生態	多様性, 保全
16:30-18:30 小集会	里山昆虫談話会 (試写室1) 地表性甲虫談話会 (試写室2) ソシオゲノミクスの現状 (A会場) 寄生性ハチ類の集い (B会場) 半翅類学会 (C会場) 穿孔性昆虫 (D会場)			

会場へのアクセス (北海道大学農学部)

JR札幌駅下車、「西改札口」より「北口」に出て、北大正門または南門からお入りください。クラーク会館近くの通用門は、工事中のため利用できません。地下鉄ご利用の場合、さっぽろ駅（JR札幌駅直結）または北12条駅（通用門、正門利用）が便利です。いずれの駅からも、会場の農学部まで徒歩で15分ほどです。会場には正面玄関からお入りください。自家用車はご利用頂けません。

地図中のアルファベット、数字は以下のコンビニエンスストアの所在地を示します。
S：セイコーマート L：ローソン K：サンクス 7：セブンイレブン



大会事務局からのお知らせ

受付：大会第1日目、9月14日（土）8:30 から、農学部1階会議室で行います。事前申し込みの方は受付の必要はありません。

名札：会場内では必ずお付け下さいますようお願い致します。事前申し込みをされた方には、講演要旨とともに名札をお送りいたします。当日参加および高校生ポスター発表の方には、受付にて名札をお渡しいたします。

講演：一般講演は15分間（発表12分、質疑3分）の講演時間を厳守願います。予鈴10分、本鈴12分、終鈴15分で経過時間をお知らせします。講演取り消しがあった場合には、その時間帯を空き時間とし、繰り上げは行いません。当日の講演取り下げは、下記緊急連絡先をお願いします。

座長：発表終了者には、次の講演の座長をお願いします。午前、午後の最初の講演の座長は大会事務局で対応します。

パソコンの準備：各自でノート型パソコンまたはタブレット端末をご持参ください。プロジェクタへの接続は VGA ケーブル（ミニ D-sub 15 ピン） になります。ご自分のパソコンに接続端子があることをご確認ください。特に Mac, iPad 等をご利用の方は 変換ケーブルをお忘れにならないよう ご注意願います。

パソコン画面の外部モニターへの切り替えの設定方法、キーコンビネーション、スクリーンの同期方法などあらかじめ各自でご確認ください。スクリーンセイバー、省電力、スリープの設定は解除しておいてください。再起動の際のパスワードも、念のためご確認ください。会場にテーブルタップは用意しますが、込み合うことも予想されますので、来場前に充電を確認してください。パソコンの電源ケーブルは各自でご準備ください。

パソコンの不具合に備え、必ずスライドの PDF データを USB メモリに保存して、お持ちください。ファイルサイズは極力小さくしてください。

試写：試写室を2部屋、8:30から一般講演終了まで用意しますので、画面が投影されるか、必ず確認してください。映像解像度は1024×768になります。これより大きいと映写できません。混雑も予想されますので、試写室では投影チェック以外の操作は行わないでください。

発表（次項「講演の手順」もご確認ください）：前講演者の発表中にお持ち頂いたパソコンを接続して頂きます。パソコンを接続する際には、あらかじめ投影ファイルを開いておいてください。前講演終了後、スイッチャーによりパソコンの切り替えを行います。

会場係の責任以外でパソコンの画面切り替えに時間がとられた場合にも、その分の時間延長は行いません。

個人でパソコンをご準備頂けない方は予備のパソコンのご利用が可能ですが、お近くの方で融通しあうなどして、極力個人パソコンのご準備をお願いいたします。予備パソコンでの講演が連続した場合、データの受け渡し等で時間が取られる恐れがありますが、その分の時間延長は行いません。大会運営側は、データ消失、USB メモリを介したウィルス感染等の責任は負いません。

講演準備および講演中は、極力電源は接続しないでください。どうしてもバッテリーに不安のある方は、進行係にお申し出ください。

高校生ポスター発表：2日目午前中、4階大講堂で高校生ポスター発表を行います。15日午前9時にはポスターが掲示できるようにします。11:00～12:00はコアタイムとしますので、これより前に掲示を終え、また発表される方はこの時間帯は必ずポスター前で対応してください。一般参加者の方は、積極的な参加とコメントをお願いします。

小集会：運営は世話人の責任で、終了時間厳守で行って下さい。すべての会場に固定式の液晶プロジェクターが装備されています。

懇親会：9月14日（土）大会第1日目の18:00より、アサヒビール園白石はまなす館にて行います（サッポロビール園ではありません。ご注意ください）。17:00にクラーク会館前から懇親会会場までのシャトルバスが出ます。公共交通機関をご利用の方は、地下鉄東西線白石駅6番出口（さっぽろ駅から南北線真駒内行き乗車／大通り駅で東西線乗り換え、新さっぽろ方面乗車）が便利です。名札に付けられた印で懇親会申込者を区別しますので、懇親会会場では必ず名札をお付け下さい。



喫煙：構内、建物内は、指定か所以外全て禁煙です。農学部一階から中央階段を降りると裏口があり、そこを出た所に喫煙所があります。ただし、裏口は土日祝は施錠されますので、喫煙所に出ることはできませんが、農学部建物に再度お入り頂くには、正面玄関まで建物を半周回っていただく必要があります。ご注意ください。

会場、休憩室：受付・本部を除く農学部会場（休憩室を含む）は、学会賞講演、総会、懇親会の時間帯は利用できません。クラーク会館ホール・食堂、中央食堂等をご利用ください。また休憩室は、小集会の時間帯も利用できません。

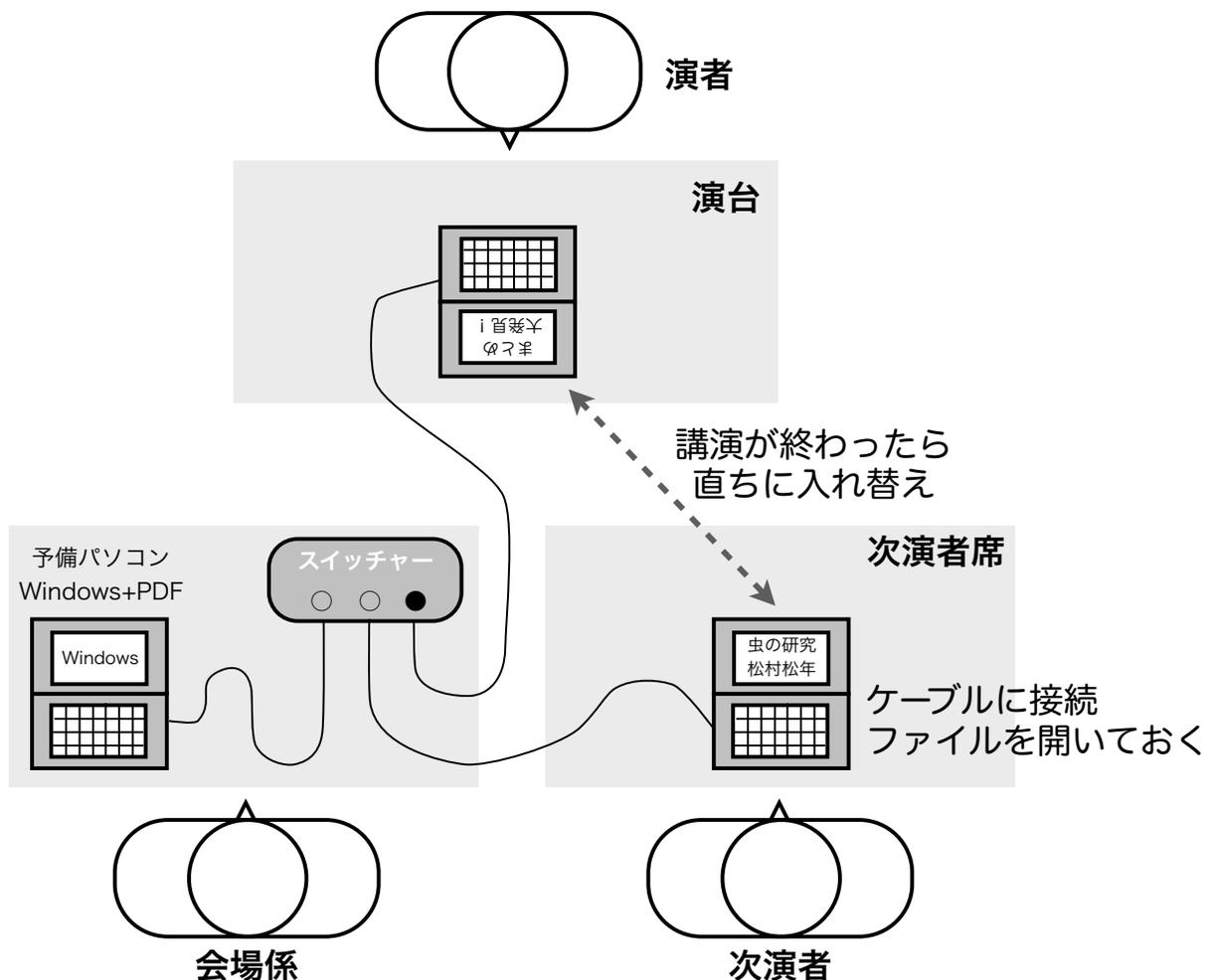
駐車場：構内には利用できる駐車場はありません。公共の交通機関をご利用の上お越し下さい。

昼食：大会期間中は、クラーク会館内の食堂（土曜のみ午後2時まで）と中央食堂（土曜日午後7時まで、日祝午後3時まで）が営業しています（地図参照）。エルムの森（インフォメーションセンター）でも、軽食の販売があります（無休、午後5時まで）。また、大学、札幌駅周辺には多数のコンビニ、飲食店があります。

会期中の緊急連絡先：011-706-3344, entsoc73@agr.hokudai.ac.jp

講演の手順

- ※これまでとは講演方法が大きく変わります。内容を熟知しておいてください。
- ※「大会事務局からのお知らせ」の「パソコンの準備」「試写」および「発表」の項目も、同様にご確認ください。
- ・ 演者の方は、前の演者の講演中に「次演者席」に着席していただき、会場係に講演順を確認した上で、ご自分のパソコンをケーブルに接続してください。投影ファイルはあらかじめ開いた状態にしてお待ちください。
- ・ 前演者の講演が終わり次第、パソコンを入れ替えます。スイッチャーの操作は、会場係が行います。講演中の操作やケーブルの着脱は演者が行ってください。
- ・ 配線が複雑になりますので、講演準備および講演中は、極力電源は接続しないでください。どうしてもバッテリーに不安のある方は、会場係にお申し出ください。
- ・ パソコンをお持ちになれない方や、パソコンの接続に問題のあった方は、予備パソコンが利用できます。前演者の講演中に、会場係にその旨お伝え頂き、指示に従ってください。
- ・ 予備パソコンは各会場一台のみ準備いたします。予備パソコンの利用が連続した場合、データの受け渡し等に時間がかかる恐れがありますが、その分の講演時間の延長は行いません。



各種会議の案内

大会前日 9月13日(金)

- 13:00~14:00 将来問題検討委員会(試写室1)
日本昆虫目録編集委員会(試写室2)
- 14:00~15:00 電子化推進委員会(試写室1)
編集委員会(試写室2)
自然保護委員会(D会場)
- 15:00~17:30 評議員会(試写室2)

学会賞授与式および受賞講演

クラーク会館 大講堂 9月14日(土) 13:00~14:10

2013年度学会賞

受賞講演: 湯川淳一 名誉会員(九州大学名誉教授)

受賞論文: YUKAWA, J., IKENAGA, H., SATO, S., TOKUDA, M., GANAHA-KIKUMURA, T.,
UECHI, N., MATSUO, K., MISHIMA, M., TUNG, G.-S., PAIK, J.-C., REN, B.-Q.
and DONG, X.-Y. (2012) Description and ecological traits of a new species of
Pitydiplosis (Diptera: Cecidomyiidae) that induces leaf galls on *Pueraria*
(Fabaceae) in East Asia, with a possible diversification scenario of intraspecific
groups. *Entomological Science* 15: 81-98.

受賞講演: 吉澤和徳 会員(北海道大学農学部)

受賞論文: YOSHIZAWA, K. and WAGATSUMA, M. (2012) Phylogenetic relationships
among superfamilies of Cicadomorpha (Hemiptera: Auchenorrhyncha) inferred
from the wing base structure. *Entomological Science* 15: 408-421.

2013年度若手奨励賞(表彰のみで、受賞講演はありません)

丸山宗利 会員(九州大学総合研究博物館) 「好蟻性昆虫とアリの多様性と進化」

日本昆虫学会第73回総会

クラーク会館 大講堂 9月14日(土) 14:15~16:30

懇親会

アサヒビール園 白石はまなす館 9月14日(土) 18:00~20:00
(17:00 にクラーク会館前よりシャトルバスが出ます)

シンポジウム

9月15日（日）13:00～16:00

RDB昆虫の現状と課題：新たに選定された環境省第4次レッドリスト昆虫種 (A会場)

企画／世話人：石井 実・大原昌宏（自然保護委員会）

- SA1 石井 実（大阪府立大学）環境省第4次レッドリストについて
- SA2 丸山宗利（九州大学）レッドリストからみた日本産甲虫の現状
- SA3 大原賢二（前徳島県立博物館）レッドリストからみた日本産双翅目の現状
- SA4 多田内修（九州大学）第4次レッドリストからみた日本産ハチ目の現状

昆虫のための新しい系統地理学 (B会場)

企画／世話人：松林 圭（北海道大学）

- SB1 岩崎貴也（東京大学）比較分子系統地理アプローチで復元する植物群集の分布変遷
- SB2 青木京子（京都大学）照葉樹林にすむ植食性昆虫および寄主植物の比較系統地理
- SB3 長太伸章（東北大学）生物地理学に対する比較系統地理からの推定
- SB4 松林 圭（北海道大学）地理変異に学ぶ食性進化と種分化の道筋
- SB5 大島一正（京都府立大学）寄主適応ゲノム領域をランドマークとして植食性昆虫の種分化を考える

昆虫分類学若手懇談会シンポジウム：分類学の過去・現在・未来 (C会場)

企画／世話人：三田敏治（東京農業大学）

- SC1 三中信宏（農業環境技術研究所／東京大学）昆虫分類学若手懇談会の40年にわたる歴史から見えてくる展望
- SC2 神保宇嗣（国立科学博物館）分類学研究の新しい可能性としての情報技術と情報学
- SC3 戸田正憲（北海道大学）ゲノム配列を利用した網羅的系統解析とこれからの分類学
- SC4 丸山宗利（九州大学）種多様性解明、それは底知れぬ魅力的な泥沼

小集会 1

9月15日（日） 16:30～18:30

第22回昆虫担当学芸員協議会総会

「次世代に託す博物館2—学芸員生活を総括する—」（試写室1）

世話人：金沢 至・初宿成彦・松本吏樹郎（大阪市自然史博物館）

- W1S11 三時輝久（山口県ベッコウトンボ調査グループ）地方博物館に勤務して
- W1S12 大原賢二（前徳島県立博物館）博物館の準備室時代と四半世紀後の現状
- W1S13 上田恭一郎（北九州市立自然史・歴史博物館）変化の中での博物館資料収集、保存、研究、展示・教育

第15回昆虫の季節適応談話会（試写室2）

世話人：田中一裕（宮城学院女子大学）後藤慎介（大阪市立大学）

- W1S11 岸本圭子（東京大学）熱帯昆虫の個体数変動に季節性はあるのか？
- W1S12 新谷喜紀（南九州大学）過変態昆虫マメハンミョウの環境適応
- W1S13 木村正人（北海道大学）ショウジョウバエの寄生蜂の気候適応

好蟻性昆虫（A会場）

世話人：小松 貴（信州大学）

- W1A1 ○丸山宗利（九州大学）小松 貴（信州大学）野村周平（国立科学博物館）
日本産アリヅカムシ亜科の好蟻性種について
- W1A2 萩原康夫（昭和大学）ミヤマシジミ幼虫はアリを認識し、アリの随伴を積極的に促している
- W1A3 小松 貴（信州大学）国内未記録の若干の好蟻性昆虫について

昆虫の家族をめぐる進化生態学 第5回（B会場）

世話人：鈴木誠治（北海道大学）工藤慎一（鳴門教育大学）

- W1B1 工藤慎一（鳴門教育大学）昆虫における親の投資の自然史：変わった投資あれこれ
- W1B2 ○貝和菜穂美（東京大学）細川貴弘（琉球大学）深津武馬（産業技術総合研究所）クヌギカメムシ：卵塊上のゼリー状物質で子は育つ
- W1B3 岡西宏之（株式会社シー・アイ・シー）子を産むためには松脂が必要？ヤニサシガメにおける松脂の特殊な利用法

コハナバチの生態学～最近の話題～（C会場）

世話人：宮永龍一（島根大学）

- W1C1 郷右近勝夫（東北学院大学）シモフリコハナバチはなぜ海浜に特化できたのか？～巣資源（砂浜）と花資源からのアプローチ～
- W1C2 ○八木議大・長谷川英祐（北海道大学）「ひとりでできるもん、できないもん」ーシオカワコハナバチにおける協同とその効果ー
- W1C3 宮永龍一（島根大学）単独性コハナバチの「母娘共存巣」にみられる奇妙な社会～母娘が等しく産卵し、カースト分化が成立する社会～

温暖化によらない（かもしれない）チョウの分布拡大（第3回）（D会場）

世話人：井上大成（森林総合研究所）

- W1D1 田中晋吾（北海道大学）オオモンシロチョウの分布と天敵寄生蜂の関係についてー10年間にわたる野外個体群の観察から
- W1D2 ○島谷光二（北翔大学）八谷和彦（拓殖大学北海道短期大学）カラフトセセリの棲息分布の拡大について
- W1D3 江田慧子（信州大学）希少種のチョウが外来植物を寄主として分布を拡大する（かもしれない）！

小集会2

9月16日（月祝） 16:30～18:30

里山昆虫談話会（試写室1）

世話人：石井実（大阪府立大学）立川周二（NPO法人自然環境復元協会）

- W2SI1 大庭伸也（長崎大学）水田の生物多様性の指標としてのタガメの食性
- W2SI2 ○森岡賢史・平井規央・石井実（大阪府立大学）福井県中池見湿地における水生昆虫群集の変化
- W2SI3 立川周二（NPO法人自然環境復元協会）里山環境のアメンボ類、どこにどんなものがあるか？

第17回地表性甲虫談話会例会（試写室2）

世話人：藤澤貴弘（大阪府立大学）

- W2SII1 丹羽 慈（自然環境研究センター）全国の森林における地表徘徊性甲虫のモニタリング調査ー環境省モニタリングサイト1000プロジェクトの紹介
- W2SII2 堀 繁久（北海道開拓記念館）北海道及び周辺離島のオサムシ科甲虫について

国際社会性昆虫学会日本支部会小集会「ソシオゲノミクスの現状」(A会場)

世話人：前川清人（富山大学）

- W2A1 辻 和希（琉球大学）国際社会性昆虫学会ケアンズ大会のご案内
- W2A2 ○尾崎まみこ・佐倉緑・北條賢（神戸大学）石井健一（東京大学）尾崎浩一（島根大学）次世代ソシオゲノミクスの視点からみた社会性生物個体の感覚・行動制御機構
- W2A3 三浦 徹（北海道大学）シロアリ研究における次世代ソシオゲノミクスのアプローチの適用
- W2A4 重信秀治（基礎生物学研究所）次世代シーケンス時代のソシオゲノミクス研究戦略

寄生性ハチ類の集い (B会場)

世話人：藤江隼平（神戸大学）藏満司夢（筑波大学）

- W2B1 ○河村友祐・大島一正（京都府立大学）クルミホソガ *Acrocercops transecta* の異なる寄主植物間での寄生蜂相に違いをもたらす至近要因の探索
- W2B2 ○辻井健太郎・三田敏治（東京農業大学）伊豆諸島におけるハチ目有剣類相の解明
- W2B3 ○粕谷菜月（首都大学）三井偉由・木村正人（北海道大学）農業害虫であるオウトウショウジョウバエに寄生するハチは本当に *Ganaspis xanthopoda* なのか？—寄生蜂の生態と分類学的検討—
- W2B4 小西和彦（北海道農業研究センター）アラカワアリヤドリバチ（ヒメバチ科）の生態と分類

日本半翅類学会小集会 (C会場)

世話人：山田量崇（徳島県立博物館）

- W2C1 ○石川 忠（東京大学）長島聖大（伊丹市昆虫館）カメムシ図鑑第3巻の表の話，裏の話，先の話

第12回穿孔性昆虫を語る会 (D会場)

世話人：梶村 恒（名古屋大学）荒谷邦雄（九州大学）

- W2D1 土岐和多瑠（京都大学）非社会性昆虫ニホンホホビロコメツキモドキと酵母の栽培共生
- W2D2 日下部良康（日本大学）クリ畑において同所的に生息するミヤマカミキリとシロスジカミキリの動態と加害様式およびその寄生蜂ウマノオバチについて

高校生ポスター発表（大講堂）

9月15日（日）午前（コアタイム：11:00～12:00）

（参加者名簿には発表者のお名前は載っていません）

- P1 関口絢子・宇久村三世・関口征宏（北海道札幌旭丘高・生物部）トンボで診断します！湿地の健康
- P2 尾田崇太郎・小林輝雄（札幌日大高校・科学部）北広島市のゴマシジミ生息地の特徴～ゴマシジミ保全のために～
- P3 綾部将典・田中美乃莉・河原慎之介・吉田奈生・吉野優希（福岡県立修猷館高校）イスノキに二重にゴールを形成する二種のアブラムシ間の相互作用
- P4 笹井優子・松橋 廉・野崎 改・東海林烈人・渡辺晴南（市立札幌大通高等学校・生物部）アリシゴクは高温下ではどんな場所を選択して巣穴を作るか
- P5 宮崎恵輔・村上義幸（福岡県立八幡高等学校・科学部）北九州のクワキヨコバイ属（半翅目：ヨコバイ科）の分散に関する研究
- P6 長柄 豊・大岩将太郎（福岡県立八幡高等学校・理数科）八幡高校の半翅目頸吻垂目昆虫
- P7-1 山口大河（池田学園池田中学・高等学校）港のアリ－外来アリのモニタリング：鹿児島県本土及び近隣島嶼の港のアリ
- P7-2 西牟田佳那（池田学園池田中学・高等学校）港のアリ－外来アリのモニタリング：トカラ列島の港のアリ
- P8 松崎俊葵・梅北 倫（鹿児島県立国分高校・サイエンス部）黒島産ミヤマクワガタは亜種クロシマミヤマクワガタか？
- P9 高瀬桜花・阿部侑樹（北海道稚内高等学校）虫にとっての『緑』の質
- P10 西村明洋・藤森友太・永末透威・越智匠海・晴山俊行・佐藤廉（立命館慶祥中学校高等学校・自然科学部生物分野）オサムシ科の季節消長と種構成の林分間比較

一般講演 14日(土) 午前

	A会場	B会場	C会場	D会場
9:00	A101 日本産ミカドガガンボ属 (<i>Genus Holorusia</i> Loew, 1863) の分類学的研究 (双翅目, ガガンボ科) 中村剛之 (弘前大学白神研)	B101 福島県・阿武隈川における地理的単為生殖昆虫オオシロカゲロウの単為生殖系統と両性生殖系統の流程分布 ○関根一希1・東城幸治2 (生物研・昆虫科学1・信州大・理学・生物2)	C101 カノコサビカミキリの生活史と幼虫生態 ○桐山哲・田島佑将・江口ひとみ・渡悠子・岩田隆太郎 (日大・生物資源)	D101 トノサマバツタの地理的変異: 正木クライン ○田中誠二1・徳田誠2 (農生研1・佐賀大学 農2)
9:15	A102 日本産キマダラヒメガガンボ属 <i>Epiphragma</i> (双翅目, ヒメガガンボ科) の分類学的研究 ○加藤大智・中村剛之 (弘前大学白神研)	B102 日本固有科・ガガンボカゲロウ科の分子系統地理学的研究 ○竹中將起・東城幸治 (信州大学)	C102 タンナサワフタギ材内に穿孔する4種のカミキリムシの棲み分け ○宇田川昂恭 (日大・生物資源)	D102 外来昆虫ブタクサハムシにおける光周性の地理的変異: 全国的傾向と異なる苫小牧個体群 ○田中幸一1・村田浩平2・松浦朝奈2 (農環研1・東海大・農2)
9:30	A103 日本産ハモンユスリカ属 (双翅目, ユスリカ科) の分類学的再検討 - 1新亜属の設立 ○山本直1・広渡俊哉2・山本優3 (大阪府大院・生環・昆虫1・九大院・農・昆虫2・山口県下関市3)	B103 ヤマトシロアリ属の分子系統解析と琉球列島における分布形成 ○竹松葉子1・内田栄々1・山下昌大1・中野由布妃1・三浦一芸2 (山口大・農1・近中四農研セ2)	C103 カミキリムシの配偶行動における視覚・振動感覚の機能と触角反応 ○深谷緑1, 2・高梨琢磨3 (東京大学・農・森林動物1・日本大学・生物資源科学2・森林総研3)	D103 イチジクヒトリモドキ休眠蛹の低温耐性に及ぼす低温順化の効果 横田絢子・○泉洋平 (島根大・生物資源)
9:45	A104 旧北区東部産ニセハリオタマバエ亜族 (ハエ目: タマバエ科) の分類学的再検討 ○徳田誠1・湯川淳一2 (佐賀大・農1・九大2)	B104 日本列島の形成史と深く関わる河川源流棲昆虫ノギカワゲラ類の分子系統地理学 加藤雄登1・○東城幸治1, 2 (信州大学大学院理工学系研究科1・信州大学理学部生物科学科2)	C104 タイシャクナガチビゴミムシ <i>Trechiana yokoyamai</i> の生存に關与する微生物学的な要素 新部一太郎 (島根大・生物資源)	D104 イチジクヒトリモドキのメスにおける飛翔活動の変化 ○松田隆嗣・泉洋平 (島根大院・生物資源・昆虫)
10:00	A105 日本産 <i>Trichosia</i> 属 (ハエ目: クロバネキノコバエ科) の分類学的研究とその幼虫形態 ○須島充昭1・Frank Menzel2・Kai Heller3 (東大・総合文化1・SDEI, Germany2・Ellerau, Germany3)	B105 コオイムシ類2種における系統地理学的研究 ○鈴木智也1・北野忠2・東城幸治3, 4 (信州大・院・総合工1・東海大・教養2・信州大・理・生物3・信州大・山岳研4)	C105 カシノナガキクイムシ幼虫の食性とグリコシダーゼ活性について ○川合俊1・和田典子2・安齋寛2・岩田隆太郎1 (日大・生物資源1・日大・短・生資2)	D105 長翅単型のヤスマツアメンボの飛翔筋二型と生活史 ○増田倫士郎・中尾史郎 (京都府大院・応用昆虫)
10:15	A106 日本列島から未知の双翅目ケバカハマバエ科 <i>Helcomyzidae</i> (Diptera) 三枝豊平 (名誉会員)	B106 ナガシダハバチ属の系統学的解析-その起源と分布- ○井坂友一1・佐藤利幸2 (信州大・院・総合工1・信州大・理・生物科学2)	C106 ネバダオオシロアリのソルジャー分化に生体アミンが与える影響 ○井上享也1・矢口甫1・佐々木謙2・前川清人1 (富山大院・理工1・玉川大・農2)	D106 ヒメマルカツオブシムシの蛹化の概年リズムは同一の親由来の幼虫集団でも見られる ○西村知良1・沼田英治2 (日大・生物資源1・京大・院理2)

一般講演 14日(土) 午前

	A会場	B会場	C会場	D会場
10:30	A107 パプアニューギニアのハネオレホソバエ科 <i>Strongylophthalmyiidae</i> (Diptera): 5新種とファウナ ○岩佐光啓 (帯広畜産大・昆虫)	B107 アリ植物オオバギ属に共生するシリアゲアリ属のマイクロサテライト解析 ○上田昇平1・長野祐介1・小松貴1・片岡陽介1・市岡孝朗2・清水加耶2・乾陽子3・市野隆雄1 (信大・理1・京大院・人環2・大教大・教育3)	C107 ケシカタピロアメンボおよびホルバートカタピロアメンボの耕作放棄水田における生態と両種の発育に及ぼす温度の影響 ○船渡亮1・村田浩平2・竹田直樹1 (東海大院農1・東海大農2)	D107 クワカミキリ成虫の日周行動・産卵・寿命調査 ○岩泉連・有本誠 (横浜植物防疫所)
10:45	A108 日本から新たに発見された <i>Cephalispa</i> 属の分類 (双翅目: イエバエ科) ○吉澤聡史・館卓司 (九大院・比文・生物体系)	B108 コルリクワガタ種群2種の分布境界域における排他的分布と形質置換及び3個体群間の遺伝子流動 ○久保田耕平1・久保田典子2 (東大・院農1・横浜市2)	C108 オキナワイトアメンボの生態と発育に及ぼす温度の影響 ○竹田直樹1・村田浩平2・船渡亮1 (東海大院農1・東海大農2)	D108 多化性寄生蜂の羽化パターン、休眠と非休眠世代で異なる ○板谷弘樹1・上野高敏2 (九州大・生資環・生物的防除1・九州大・農院・生物的防除2)
11:00	A109 双翅類における“頸”の形態比較 館卓司 (九大院・比文・生物体系)	B109 関東地方におけるルリクワガタ属共生酵母の系統性 ○渡邊花奈1・棚橋薫彦2・深津武馬2・久保田耕平1 (東大・院農1・産総研2)	C109 セグロアシナガバチの創設期コロニーにおける蛋白質資源の分配様式 ○長沼友里子1・工藤起来2 (新潟大学院・教育1・新潟大学・教育2)	D109 日本産 <i>Asphondylia</i> 属 (ハエ目: タマバエ科) に寄生する <i>Eurytoma</i> 属 (ハチ目: カタピロコバチ科) の分類学的地位と寄主範囲 ○松尾和典1・徳田誠2・上地奈美3・湯川淳一4 (美馬市1・佐大・農2・果樹研3・九大4)
11:15	A110 福島県内の池沼から記録されたヒメシロカゲロウ属の一種 (カゲロウ目: ヒメシロカゲロウ科) ○増淵翔太1・塘忠顕2 (福島大・院・共生システム理工1・福島大・共生システム理工2)	B110 日本産と韓国産シルビアシジミの <i>Wolbachia</i> 感染と遺伝的多様性の比較 ○平井規央1・坂本佳子1・矢後勝也2・李哲敏3・石井実1 (大阪府大院・生命1・東大・総研博2・韓国山林科学院3)	C110 セイヨウミツバチの造巣行動の研究 (1) 「三角つまみパターン」と「かんながけ行動」 平坂優衣1・○大谷剛2・大崎浩一2・上道賢太2 (小林聖心中31・関学大・数理研2)	D110 <i>Acrodactyla degener</i> のユノハマサラグモへの寄生 (Ichneumonidae, <i>Polysphincta</i> group) ○松本史樹郎1・高須賀圭三2 (大阪自然史博1・神戸大2)
11:30		B111 シジミチョウ科ゴマシジミの分子系統地理 ○矢後勝也1・エガチャイジェラティティクル2・新川勉3・山本直樹4・疋田努2・三枝豊平5・毛利秀雄6 (東京大・総研博1・京都大・院理2・放送大3・札幌市4・九州大5・東京大/放送大6)	C111 ミツバチ類の社会性行動&化学コミュニケーションとヒト社会の科学コミュニケーション 笹川浩美 (独) JST日本科学未来館・(公財) JSF科学技術館・(公財) FAIS研究開発部・(学)跡見学園)	D111 中部山岳域においてハイマツを食害するハバチ <i>Gilpinia</i> sp.新種について ○中村寛志1・古屋 諒1・斉藤雄太1・江田慧子2・原秀穂3 (信州大学農学部AFC1・信州大学山岳科学総合研究所2・北海道立総合研究機構・林試3)
11:45		B112 関東平野におけるコシピロダンゴムシ科 (等脚目) の遺伝的分化 ○金澤泰斗・久保田耕平 (東大・院農)		D112 沖縄島産オオズアリが示す地理的な女王数の変異 ○片山元気1, 2・金子翔2 (京都大学・人環1・琉球大学・農2)

一般講演 15日(日) 午前

	A会場	B会場	C会場	D会場
9:00	A201 マルヒメツヤドロムシの雄交尾器内袋の観察と近似の未記載種 林成多(ホシザキグリーン財団)	B201 セスジアメンボの餌条件を統一した累代飼育法の確立、および翅型決定における広義の遺伝率の推定 ○広岡佑太・大島一正(京都府大院・生命環境)	C201 アリと好蟻性シジミチヨウの緊迫した共生関係 ○萩原康夫1・秋野順治2・水野尊文2・坂本洋典3(昭和 大1・京都工繊大2・玉川大3)	D201 オオハサミムシの生活史に関する知見 ○河野勝行・飯田博之・武田光能(野菜茶業研究所)
9:15	A202 日本産セマルヒラタムシ亜科Brontinae(甲虫目:ホソヒラタムシ科)の分類学的研究 ○吉田貴大1・丸山宗利2・広渡俊哉3(九大院・生資環・昆虫1・九大・博2・九大院・農・昆虫3)	B202 エンドウヒゲナガアブラムシのオスの翅形成にかかわる遺伝子について ○神戸崇・秋元信一(北大院・農・昆虫体系)	C202 兵庫県下におけるクモバチ科・ヒゲクモバチ(Dipogon)属の分布と生態ー第2報ー ○西本 裕・遠藤知二(神戸女学院大・人間科学)	D202 食材性コガネムシ上科の幼虫における栄養生態の比較 ○三島達也1・和田典子2・細谷忠嗣1・岩田隆太郎3・安齋寛2・荒谷邦雄1(九大院・比文1・日大・短・生資2・日大・生物資源3)
9:30	A203 南西諸島のアカハネムシ属Pseudopyrochroaについて 甲斐達也(愛媛大・農)	B203 Tuberculatus属アブラムシ体内の微生物ボルバキアに対する季節的定量 八尾泉(北大院・農・昆虫体系)	C203 ウマノオバチはなぜ外敵に襲われないのか? ○日下部良康1・深谷緑1,2(日大・生物資源1・東大・森林動物2)	D203 ルームシジミ房総半島個体群の発消長と発育経過 井上大成(森林総研多摩)
9:45	A204 クナシリシジミガムシの幼虫形態と水生ガムシ科幼虫の浮力確保方法(鞘翅目・ガムシ科) ○藁島悠介1・岩田泰幸2・林成多3(北九州市立自然史・歴史博物館1・ニューロンサニター株式会社2・ホシザキグリーン財団3)	B204 ナミヒメクモバチ(クモバチ科)日本集団の配偶行動解析 ○久留島宏明1・清水晃1・西本裕2・佐山勝彦3・松本和馬4・加藤学5・渡邊謙太6(首都大院・理工1・神戸女学院大・人間科学2・森林総研・北海道3・森林総研・東北4・山田養蜂5・沖縄高専6)	C204 石垣島に生息するニイニイゼミ2種の求愛歌の特徴 ○立田晴記1・佐々木健志2(琉球大学農学部1・琉球大学風樹館2)	D204 シジミチヨウ幼虫における体表脂質の化学的特徴 ○大村尚1・村上智俊1・渡邊通人2(広島大・院・生物圏1・NPO富士山自然保護センター2)
10:00	A205 オオシロアリを寄主とする好白蟻性ハネカクシ(甲虫目:ハネカクシ科) ○金尾太輔1・丸山宗利2・岩田隆太郎3(九州大・生資環・昆虫1・九州大・博2・日大・生物資源3)	B205 ギンケハラボソコマユバチの二親・単親系統における核遺伝子の変異 ○藤江隼平・前藤薫(神戸大院・農)	C205 侵入者の存在はヨツボシモンシテムシの子育てに影響するか 鈴木誠治(北大・農)	D205 ナンキョクユスリカの概日時計遺伝子 ○後藤慎介1・Kobelkova Alena2・Denlinger David L.2・LeeRichard E.3(大阪市大・院理1・オハイオ州立大・昆虫2・マイアミ大・動物3)
10:15	A206 日本産ヒゲプトハネカクシ属Aleochara亜属(甲虫目:ハネカクシ科)の分類学的再検討 ○山本周平1・丸山宗利2(九州大・生資環・昆虫1・九州大・博2)	B206 アリ類ーアリグモ類の多様性アソシエーション:擬態パターンとの多様性と擬態モデル種の形態的・生態的特性との関係 ○橋本佳明1,3・遠藤知二2・市岡孝朗3・兵藤不二夫4・山崎健史5(兵庫県立大1・神戸女学院大2・京都大学3・岡山4・鹿児島大5)	C206 アオゴミムシの色彩選好性 楠原充隆(東北農業研究センター)	D206 日中の高い砂温はタマネギバエ新成虫の地上脱出を妨げる ○田中一裕1・渡康彦2(宮城学院女子大・一般教育1・芦屋大・臨床教育2)

一般講演 15日(日) 午前

	A会場	B会場	C会場	D会場
10:30	A207 日本産ナガタムシ属 (甲虫目:タムシ科)の現 状と課題 福富宏和(石川県ふれあい昆 虫館)	B207 短翅性フキバツタ2種 間における生殖隔離の強化 ○川上靖1・立田晴記2(鳥取 県立博物館1・琉球大学・農 2)	C207 ケムシの「毛」は被食 防衛に有効か? ○杉浦真治1・山崎一夫2(神 戸大学・農学1・大阪市立環 境科学研究所2)	D207 非24時間温度周期下で のノシメダラメイガの羽化 リズム:温度差の効果 菊川茂(富山大・理・生物)
10:45	A208 ZooBankへの登録:面 倒な気持ちを奮い立たせる幾 つかの例 吉富博之(愛媛大学ミュージ アム)	B208 近畿地方北部における サトウナミザトウムシ(クモ ガタ綱)のB染色体をともな う染色体数の地理的分化 ○鶴崎展巨・田中佑希・石田 裕樹・山田恭平(鳥取大・地 域・生物)		
11:00 - 12:00	高校生ポスター発表コアタイム(4階大講堂)			

一般講演 16日(月祝)午前

	A会場	B会場	C会場	D会場
9:00	A301 アラクシにゴールを形成する <i>Cycloneuroterus fortuitus</i> (膜翅目: タマバチ科: ナラタマバチ族) の単性世代の形態および分類 ○井手竜也1, 2・阿部芳久1 (九大・比文1・学振PD2)	B301 トンボ目における雄一次生殖器形態の多様性 小林純子 (東農大院・昆虫)	C301 雄殺し <i>spiroplasma</i> 感染ナミテントウの感染動態と野外交尾率について ○對馬佑介・中村佳代・三浦一芸 (広島大学大学院生物圏科学研究科)	D301 福島第一原発事故による放射性物質の放出とそれによる水生昆虫等の汚染 吉村真由美 (森林総研)
9:15	A302 インドシナ半島におけるナラタマバチ族(膜翅目: タマバチ科)の発見 ○阿部芳久1・井手竜也2・小西和彦3・上野高敏4 (九大・比文1・九大・比文、学振PD2・北農研3・九大・農4)	B302 日本産ガロアムシ類の雌における形態比較 内船俊樹 (横須賀市博物館)	C302 同一寄主木をめぐるミカドキクイムシとサクキクイムシの穿孔様式とそれが繁殖に及ぼす影響 ○西村朋也・梶村恒 (名大院・生命農・森林保護)	D302 日本の山岳域におけるアザミウマ相の解明 (予報) ○志賀澄歌1・塘忠顕2 (福島大・院・共生システム理工1・福島大・共生システム理工2)
9:30	A303 小笠原諸島のヤセバチ上科およびツノヤセバチ上科(ハチ目), 特に兄虫における多様性と保全の重要性について 渡辺恭平 (神奈川県立生命の星・地球博物館)	B303 シンジュキノカワガ属(鱗翅目: コブガ科)の雌雄外部生殖器構造 上田恭一郎 (北九州市自然史・歴史博)	C303 東南アジア熱帯林のハムシ成虫の食性-DNAバーコーディングによる解明- ○岸本圭子・伊藤元己 (東大院・広域)	D303 北大構内・植物園におけるハナバチ多様性の30年に亘る遷移 -予報- ○松村 雄1・滝久智2・戸田正憲3 (那須塩原市在住1・森林総研2・北大総合博物館3)
9:45	A304 中央アジアにおける単独性・社会性コハナバチ類の多様性 ○村尾竜起1・多田内修2・宮永龍一3 (九大・院理・生物1・九大・院理・生物2・島根大・生物資源・昆虫3)	B304 走査型電子顕微鏡(SEM)による空中浮遊性甲虫後翅縁毛の形態比較 野村周平 (国立科博)	C304 ヒメジャノメを寄主として用いた場合の, マダラヤドリバエの産卵行動における寄主と植物の影響 ○土田大希・平井規央・石井実 (大阪府大院・生命・昆虫)	D304 Long-term changes of ant communities of urban parks in Japan ○PARK Sang-Hyun 1・細石真吾2・緒方一夫2 (九州大学熱帯農学研センター1・九州大学熱帯農学研センター2)
10:00	A305 東アジアで新たに見つかったミズバチ(ハチ目、ヒメバチ科) 小西和彦 (北農研)	B305 クマゼミ卵の漿膜クチクラに形成される孵化線 ○森山 実1・泰山浩司2・沼田英治3 (産総研・生物プロセス・学振PD1・川崎医大・自然科学・生物2・京大・院理3)	C305 イボタミタマバエ(ハエ目: タマバチ科)の長期個体群動態、とくに、ネズミモチの花蕾のアポーションと隔年結実によるボトムアップ効果 ○湯川淳一1・宮本和久2・上地奈美3 (九大1・生物研2・果樹研3)	D305 建設後30年経過した広島市の大規模団地でのチョウ類の種多様性と生息環境 -2010から2012年の3か年調査結果- ○石谷正宇1・水田國康2 (広島大学・院・総科1・広島市2)
10:15	A306 日本産アゲハヒメバチ属 <i>Holcojoppa</i> の分類学的研究 菊地波輝 (首都大・生命)	B306 ユキムシ(トドノネオオワタムシ)有翅虫の春世代と秋世代 ○山田大邦1・片桐千仍2・秋元信一3・宮下洋子4 (札幌1・東京2・北大院農昆虫体系3・道文教大人間科学健康栄養4)	C306 ナラハベリオレタマバエ <i>Macrodiplosis</i> sp. (ハエ目: タマバチ科)の1齢幼虫による急速なゴール形成 ○キムワングユウ1・松尾和典2・松永紀代子3・行徳直久4・湯川淳一5 (九大院・生資環・昆虫1・美馬市2・筑紫野市3・久留米市4・九大5)	D306 ロンボク島の荒地地再造林地におけるチョウ類群集10年間の変化 ○松本和馬1・Wro Noerdito2 (森林総研東北支所1・インドネシア科学院生物学研究所2)

一般講演 16日(月祝) 午前

	A会場	B会場	C会場	D会場
10:30	A307 ツマグロケンヒメバチとその近縁種をめぐる地理的変異と遺伝的関係の解明(ハチ目:ヒメバチ科) ○伊藤誠人1・前藤薫1・渡辺恭平2(神戸大院・農1・神奈川県立生命の星・地球博2)	B307 タカサゴシロアリの性とリンクした兵隊分化:雌雄職蟻の幼若ホルモン量の比較解析 ○半本秀太郎1・渡邊大2・三浦徹2・前川清人1(富山大理工1・北大 地球環境2)	C307 クロスタビガの生態―野外での幼虫発見と営巣場所 ○三田村敏正1・月田禮次郎2(福島農総セ浜研1・福島県南会津町2)	D307 絶滅危惧種チャマダラセセリに関する生態学的研究 ○江田慧子1・井角恒太2・中村寛志2(信州大山岳科学総合研究所1・信州大農学部AFC2)
10:45	A308 シリアゲアリ属 <i>inflata</i> 種群(ハチ目:アリ科)の分子系統と形質進化 ○細石真吾1・丸山宗利2・緒方一夫1(九州大・熱研セ1・九州大・博2)	B308 シロアリのカースト特異的なクチクラタンニングにおけるホルモン関連遺伝子の役割 ○増岡裕大・前川清人(富山大 理工)	C308 竹筒トラップ法を用いたクモバチ(ベッコウバチ)科の托卵寄生種の探索 ○清水晃1・西本裕2・遠藤知二2・牧野俊一3・岡部貴美子3・佐山勝彦4・松本和馬5(首都大院・生命科学1・神戸女学院大・人間科学2・森林総研3・森林総研・北海道4・森林総研・東北5)	D308 北海道遠軽町でアサマシジミの保全を始めました。喜田和孝(丸瀬布昆虫生態館)
11:00	A309 東洋区におけるハシハリアリ属の分類学的再検討I: <i>processionalis</i> 種群(ハチ目:アリ科) ○有本晃一1・丸山宗利2・山根正気3(九州大院・生資環・昆虫1・九州大・博2・鹿児島大・理3)	B309 オオシロアリにおける兵隊特異的な唾液腺分化と発現タンパクの同定 ○箕浦るん・渡邊大・三浦徹(北大・環境)	C309 ニールセンクモヒメバチによるギンメッキゴミグモの網操作は健全クモが張る休息網を利用している ○高須賀圭三1・中田兼介2・松本吏樹郎3・前藤薫1(神戸大・農・昆虫生態1・京都女子大・現社2・大阪自然史博3)	D309 絶滅危惧種ミサキノトビケラの生息状況 ○倉西良一1・勝間信之2(千葉県博1・環研センター2)
11:15	A310 スズメバチネジレバネの宿主特異性と分類 ○中瀬悠太・加藤真(京大院・人環)	B310 オオシロアリの前兵隊特異的なクチクラ形質と頭部伸長現象 ○杉目康広・小川浩太・渡邊大・三浦徹(北大院・環境)	C310 共同育室をもつアルマンアナバチの貯食量の調節と子の発育過程 ○遠藤知二・今崎惟・田口詠子・島津ゆうみ(神戸女学院・人間科学)	D310 水生昆虫群集の初期遷移は人工池の設置時季によって異なるか? ○鈴木真裕・平井規央・石井実(大阪府大・生命・昆虫)
11:30	A311 マレーシアのアリ植物から発見された背中に突起のあるヒョウタンカスミカメ7種(半翅目:カスミカメムシ科) ○中谷至伸1・小松貴2・市野隆雄2・清水加那3・市岡孝朗3・Hashim Rosli4・上田昇平5(農環研1・信州大・理2・京大・人環3・マラヤ大4・信州大・山岳総研5)	B311 幼若ホルモン類似体を用いた雌カースト分化誘導系の確立 ○岡本美里・アレクサンダーミケエブ(OIST 生態進化学ユニット)	C311 アルマンアナバチの適応的なともぐいの可能性:飼育実験による検討 ○今崎惟1・田口詠子2・島津ゆうみ2・遠藤知二2(神戸女学院大学人間科学研究科1・神戸女学院大学人間科学部2)	D311 水生昆虫は水田で繁殖できるのか?―早期湛水栽培の効果 ○中西康介1, 2・田和康太2・沢田裕一2(名大・院・環境1・滋賀県大・環境2)
11:45	A312 ツノゼミ亜科Centrotinae(カメムシ目:ツノゼミ科)における亜社会性の進化(予報) ○丸山宗利(九州大・博)	B312 トゲオオハリアリにおける雌雄誘導系の確立と核型解析 ○笹千舟1・宮崎智史2・岡田泰和3・東正剛1・三浦徹1(北大 環境1・富山大 理工2・東大 総合文化3)		D312 和歌山県千里浜における海浜植物ハマゴウの花粉媒介 ○西條喜来1・塚田森生2(鹿児島大・理工1・三重大・生物資源2)

一般講演 16日(月祝) 午後

	A会場	B会場	C会場	D会場
13:00	A321 徳島県で採集された注目すべき小蛾類 ○広渡俊哉1・小林茂樹2・長田庸平3・池内健4・山田量崇5(九大院・農・昆虫1・大阪府大院・生環・昆虫2・九大院・生資環・昆虫3・大阪府大・生環・昆虫4・徳島県博5)	B321 日本のゴケグモ類の現状と問題 ○金沢至1・清水裕行1・西川喜朗2・杉本央3・小林陸生4・富永修5・乾公正6・上村清7(大阪市自然博1・追手門大2・阪大・医学3・感染症研4・四條畷保健所5・日本毒性学会6・富山大・医薬学7)	C321 新熱帯に生息するベルシカラアアシナガバチにおける巣仲間成虫間の血縁関係 ○高橋裕美・山田彩乃・工藤起来(新潟大・教育)	D321 環境が異なる小面積林分での腐肉食シデ・コガネムシとオサムシ群集の環境への反応 上田明良(森林総合研究所九州支所)
13:15	A322 日本産コハモグリガ亜科(鱗翅目, ホソガ科)の分類学的再検討 ○小林茂樹1・広渡俊哉2(大阪府大院・生命・昆虫1・九大院・農・昆虫2)	B322 富山県の市街地に生息するマダニ類 ○山内健生1・名古屋真弓1・渡辺 護2・稲崎倫子1・滝澤剛則1(富山衛研1・感染症研・昆虫医科学2)	C322 クロヤマアリ(<i>Formica japonica</i>)の泳ぎに光源が与える影響 山口剛(千葉県立中央博物館)	D322 外来ペット昆虫の生態リスク評価と管理へのDNAバーコーディングの応用〜クワガタムシ科フタマタクワガタ属における実例の紹介〜 ○荒谷邦雄1・細谷忠嗣1・小田切顕一1・西田伸2(九大院・比較社会文化1・宮崎大・教育文化2)
13:30	A323 前翅長が重複することが分ったノコバヨトウとオオノコバヨトウ(ヤガ科 <i>Tiracola</i> 属)の識別 ○綿引大祐1・吉松慎一2(東農大院・農・昆虫1・農環研2)	B323 捕食性天敵ヒメハナカメムシ <i>Orius</i> のメタゲノム解析 ○三浦一芸・安部順一朗・世古智一(近中四農研)	C323 マレー半島におけるメナドマガリアリの生活史と社会構造 ○伊藤文紀1・Rosli Hashim2・Bruno Gobin3(香川大・農1・マラヤ大2・ベルギーPCFruit3)	D323 オオクワガタ <i>Dorcus hopei binodulosus</i> 日本集団における人為的攪乱の検証 加藤啓佑1・楠見淳子1・○細谷忠嗣1・五箇公一2・立田晴記3・荒谷邦雄1(九大院・比文1・環境研2・琉大・農3)
13:45	A324 日本産 <i>Nemopogon</i> 属(チョウ目ヒロズコガ科)の分類とその近縁属(予報) ○長田庸平1・宮本泰行2・坂井誠3・広渡俊哉4(九大院・生資環・昆虫1・亀岡食品販売(株)2・共生科学3・九大院・農・昆虫4)	B324 チャ遺伝資源のチャノミドリヒメヨコバイに対する抵抗性評価 萬屋宏(独)農研機構 野菜茶業研究所)	C324 トゲズネハリアリにおける巣仲間個体間の血縁関係 ○榎田宏治1・弓桁三宜2・山口勇気3・岩西哲4・工藤起来2(新潟大院・教育1・新潟大・教育2・新潟大院・自然科学3・森の学校キョロロ4)	D324 ネプトクワガタはどのような樹液場を嗜好するのか? 加藤啓司(名大院・生命農・森林保護)
14:00	A325 クロツヤミノガの所属は? 三枝豊平1・清野昭夫2・○杉本美華3(名誉会員1・誘蛾会2・九州大学総合研究博物館3)	B325 キアシカマバチの集団遺伝構造 —東アジアとフィリピンと比較— ○三田敏治1・松村正哉2・松本由記子3(東農大・農1・九州沖縄農研2・生物研3)	C325 アルゼンチンアリのスーパーコロニー間における行動特性の違い ○井上真紀1・五箇公一2・伊藤文紀3(農工大院・農1・国立環境研2・香川大・農3)	D325 小笠原兄島のグリーンアノール新規侵入地で被食される昆虫 ○岸本年郎1・八巻明香1・永野裕1・高橋洋生1・澤邦之2・山下淳一2・鋸柄直純1(自然研1・環境省2)
14:15	A326 オビマイコガ <i>Stathmopoda opticaspis</i> に近縁な2未記載種(鱗翅目, ニセマイコガ科) 寺田剛(鹿大院・連農)	B326 日本に生息する導入天敵シルベストリコバチ2系統の分布 ○佐藤安志・上杉龍士(野茶研(金谷))	C326 セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシの夏季没姿現象とそのメカニズム ○安達修平1・吉富博之2・徳田誠1(佐賀大・農1・愛媛大・農2)	D326 ミツバチおよびマルハナバチにおける病原性微生物の浸潤状況 ○高橋純一・小原真美・野村哲郎(京都産業大学総合生命科学部)

一般講演 16日(月祝)午後

	A会場	B会場	C会場	D会場
14:30	A327 アジア産トコジラミ上科(カメムシ目)の分類研究:現状と展望 山田量崇(徳島県博)	B327 ジノテフラン剤の土壌注入処理によるツバキのチャドクガの防除効果 ○田中寛1・谷古勝彦2・柴尾学1(大阪環農水研1・(株)ダスキン2)	C327 オオイヌタデのトリコームが植食性昆虫の摂食に及ぼす影響 ○白濱祥平・徳田誠・山尾僚(佐賀大システム生態)	D327 特定外来生物セイヨウオオマルハナバチの防除手法開発 ○五箇公一1・森口紗千子1・井上真紀2(国立環境研1・東京農工大院・農2)
14:45	A328 “こばね”のクロトビイロサシガメの正体 ○石川忠・宇津木望・伊藤元己(東大・総合文化)	B328 ネギアザミウマの増殖に関するネギの品種間差異 ○河合章・武田光能・塚崎光・山下謙一郎・若生忠幸(野菜茶研)	C328 潜葉性チョッキリにおける葉巻きの効果～操作実験による検証～ ○小林知里1・松尾和典2・河田雅圭1(東北大・院・生命科学1・香川県西部家畜保健衛生所2)	D328 アルゼンチンアリの防除成果とその他のアリ類に対する影響 ○坂本佳子1・井上真紀2・大西一志1・鈴木一隆1・上森大幹1・野村拓志1・早坂大亮3・岸本年郎4・杉山隆史5・杉丸勝郎5・五箇公一1(国環研1・農工大院・農2・近大・農3・自然研4・フマキラ-5)
15:00	A329 ピワコブオオアブラムシの有翅虫の発見とその系統的意義 ○佐野正和1・吉富博之2(沖縄市郷土博1・愛媛大学ミュージアム2)	B329 交信攪乱によるアリモドキゾウムシの交尾阻害効果 ○小濱継雄・具志堅千尋・松山隆志(沖縄農研センター)	C329 フタイロカミキリモドキにおける配偶行動の個体群間変異 ○小汐千春1・小笠航2・立田晴記2・里見太輔1・工藤慎一1(鳴門教育大・学校教育1・琉球大・農2)	D329 エゾオオマルハナバチの遺伝構造について ○大石友樹・野村哲郎・高橋純一(京産大・総生命)
15:15	A330 トロエンキジラミ(半翅目:キジラミ科)の正体 井上広光(果樹研)	B330 生物保全に配慮した生物防除の試みー有機農業圃場への植物残渣導入による土着天敵利用の害虫防除 徐啓聡(信大理)	C330 亜社会性昆虫における角の二型性と巢内の滞在期間の関係 赤嶺真由美(日大・生物資源)	D330 放牧地における牛用寄生虫駆除薬投与が糞虫相に与える影響 吉田信代(畜産草地研)
15:30	A331 サカキを加害するオビヒメヨコバイ族(カメムシ目:ヨコバイ科)の新属新種の検討 大原直通(九大院・生資環・昆虫)	B331 ナミテントウのゲル状人工飼料の考案ー水分保持能の検討 ○郡山大樹1・新島恵子1・中村純2(玉川大・農1・玉川大・ミツバチ研2)		
15:45	A332 DNAバーコードが酷似する2種のクワキヨコバイの形態と分布 紙谷聡志(九州大・農・昆虫)	B332 <i>Lactobacillus kunkeei</i> YB38がミツバチコロニーに与える影響 ○浅間孝志・加藤学・渡部多美・松浦大介・谷央子・橋本健(株式会社山田養蜂場本社)		